

七校便り

宮城県白石高等学校七ヶ宿校
No. 28
平成24年 5月15日

満開の桜の樹の下で

5月1日、本校の桜も満開となりました。今年4月に入っても、寒い日が続き、全国的にも桜の開花が、例年より大分遅れました。しかも3日の暴風雨で散ってしまいましたので、本当に短い花の命となりました。

ようやく訪れた春の日差しを浴びて、満開の桜を背に、学年ごとに記念写真を撮りました。



駐車場側から撮影した桜です。向かって左側が玄関、右側が関小学校側となります。



1年生の集合写真です。生徒13名、この日循環器検診があったので、皆ジャージを着用しています。入学して一ヶ月、学校にも段々に慣れてきました。後列右端が担任の若生啓太先生、左から二番目が副担任の金子忠政先生です。



2年生です。生徒8名、後列左から二人目が担任の門脇美雪先生、右から二人目が副担任の遠藤直志先生です。



3年生です。生徒12名、前列右端が担任の永井寛先生、後列右端が副担任の長谷川昭夫先生です。

雨

5月2日は、傾城森へ遠足の予定でしたが、朝からあいにくの雨となり、中止となりました。前日にそれぞれの班で買い出しに行き、用意した材料を使って、調理し、いつもとは違う昼食を楽しみました。野外で調理することを想定していたので、メニューは焼き肉と焼きそばが多かったようです。



理科室での調理風景です。出来上がった焼きそばを、トングで盛り付けているところ。



菜箸を持っているのが3年生，炒めているのが2年生，眺めているのが1年生。



焼き肉でしょうか？

よろしくお願いします

5月1日から、キャリアアドバイザーの紺野保男先生が、七ヶ宿校に着任されました。キャリアアドバイザーは、生徒の就職活動を

支援したり、進路の相談に応じたりが、主な仕事です。紺野先生は、平成21年度にも、本校でキャリアアドバイザーをされ、生徒の進路実現に大きな力を発揮されました。今年も大変お世話になります。

紺野先生から、七校生へのメッセージです。

『七ヶ宿校の生徒のみなさんこんにちは、こんどみなさんの学校にキャリアアドバイザーとして配置になりました紺野保男と申します。七ヶ宿校勤務は、平成21年度以来二度目の配置になります。私の仕事は、みなさんの大切な「進路」の支援を行う事です。みなさんとは、進路行事に関わることになると思いますので。よろしく願い致します。

そして、これから進路を決めようとしている生徒のみなさんに私の好きな次の言葉を贈ります。それは、小説家 山本有三氏の小説「路傍の石」(ろぼうのいし)に出てくる一節です。

「たった一人しかいない自分をたった一度しかいない一生を、本当に生かさなかったら、人間生まれてきたかいがないではないか」と言う言葉です。

この言葉が示すとおり。人生は一度きり、人生の主役はみなさんです。自分自身の歩みを他の人に左右されたり。他の人と自分を比較したりすることなく。自分らしい人生を送ってほしいと思います。その為にも、みなさんの進路は自ら選択、決定して将来の目標に向かって進んでほしいと思います。』

余白（副校長）

遠足が雨天中止となったのは、実に8年ぶりのことでした。翌日には、5月のこの時期としては記録的な豪雨に見舞われました。昨年の大震災といい、4月の爆弾低気圧といい、先日の竜巻といい、自然の力に、私達人間は決して勝てません。最近の異常気象は、人類に謙虚さを求めているのかも知れません。